

オペレッタ「伊那谷の井月さん」

詞・曲 一ノ瀬武志

(セリフ) むかしむかし、信州のいな谷に、せいげつさんという、はいくのじょうずな男がやって来ました。

♩=72

(井月) 旅人の われも数なり花ざかり (全員) 旅人の われも数なり花ざかり

gva

p

5 ♩=80

f

8 *f*

いなだにのむらからむらへ

オペレッタ「伊那谷の井月さん」

11

たびしてあるく ひとりのおとこ せいげつさん せいげつ

14

さん おさけをのんで いきなされ はいくをかいて くださいな

17

ふる さとも かぞくも いえ

20

も もたずにいきる ひとりのおとこ せいげつ

オペレッタ「伊那谷の井月さん」

23

さん せいげつさん こんやはとまっていきなされ

26 *rit.*

はいくをかいて くださいな

(セリフ) しかし、せいげつさんは年をとると、だんだんみすぼらしいすがたになって、
村人たちからきらわれるようになりました。

29 ♩=80

(井月) 草木のみ ふくにもあらず秋の風 (全員) 草木のみ ふくにもあらず秋の風

34 *mp*

さんじゅうねんの つきひはながれ

オペレッタ「伊那谷の井月さん」

38

はおり はかまも ボロボロに きたないみなりの せいげつさんが

42

トボトボむらを あるく せいげつが きたぞ

f

46

「まあ、きたないわ」 せいげつが きたぞ 「るすだといってやれ」 せいげつが きたぞ

p ————— *f* *p* ————— *f*

50

「いしをなげる」「ワー！」

それでも けっして

f *mp*

オペレッタ「伊那谷の井月さん」

53

おこらずに あるきつづけた せい げつさん

(セリフ) ある年のくれのこと。ひやまとうげのふもとの村で、せいげつさんはとうとうたおれてしまいました。

57 ♩=80

(井月) ゆき先に 困りはてたり年の坂 (全員) ゆき先に 困りはてたり年の坂

62 ♩=120 *f*

おい だれかがたおれているぞ

65

たんぼのなかだ せいげつだ せい げつさん を

オペレッタ「伊那谷の井月さん」

84

みぶがわこえて はこぼうか みすずのむらまではこんでいけば

88

だれかがめんどう みるだろう

mp

(セリフ) みすずの村にたどりついたせいげつさんは、親切な家でかんびょうしてもらいました。そして、春のかすみがかかるところ、静かに息をひきとったのです。

93 $\text{♩} = 80$

(井月) どこやらに たづの声聞かすみかな (全員) どこやらに たづの声聞かすみかな

p

98

したしいひとに みまもられ さいごのはいくを

f

オペレッタ「伊那谷の井月さん」

102




かきのこし かすみのせかいへ たびだつ た ひとりのおとこの

106



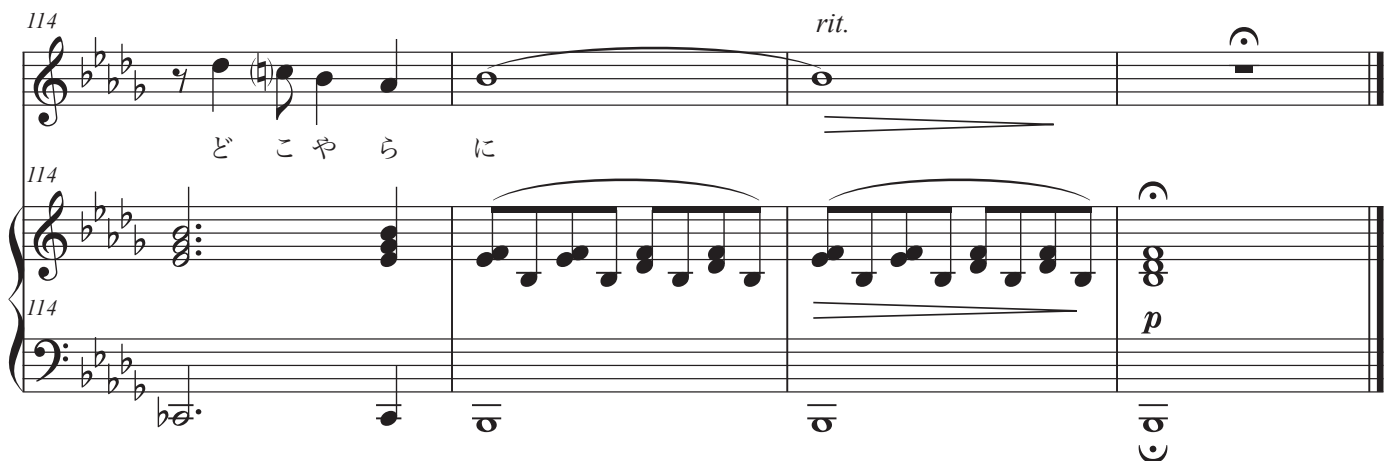
ものがたり せい げつさん せい げつさん せい げつさん は

110



どこやらに どこやらに

114



どこやらに

rit.

p